

14. 本学の歴史から学ぶ看護教育【特別講座】

看護学部では、「看護学部の歴史に学び未来を創造する」というテーマで、学部1回生を対象とした特別講義を開催している。この講義は、本学部の卒業生であり、長年本学部での教育に携わってこられた先生を講師にお迎えし、高知女子大学設立、家政学部看護学科の設置から、看護学部へと発展してきた歴史と歩みを知るとともに、その中で培われてきた看護の理念や、教育の理念について理解を深め、さらに、そのような歴史をもつ本学で看護を学ぶことの意義について各自が考え、自身の看護観の育成につなげること、愛校心の涵養をはかることを目的としている。

平成30年度は、本学名誉教授の松本女里先生を講師に迎え、平成31年2月4日（月）13:00～14:30に開催された。講義では、第2次世界大戦の最中に本学の前身である高知県立女子医学専門学校が設立された経緯、県立高知女子大学の設立、看護学科の設置、そして看護学部として独立し、研究科設置に至る流れと創基70年を迎えた本学の歴史について、当時の社会情勢をふまえながらお話しいただいた。松本先生の学生時代のエピソード、高知県の保健師として活動された経験談もふまえ、人々の生活が歴史や社会の情勢に大きく関わっていること、常に歴史や社会と関連付けて人々の生活をみることの重要性も話された。また、松本先生が本学ご退官後も、地域や被災地などでのボランティア活動で看護の実践を続けられていることを知り、学生は看護活動の場の多様性や生涯にわたって専門性を発揮できる看護の強みを目の当たりにした様子であった。

終了後の学生の感想では、「看護が重要視されていなかった時代があったということに驚いた。今、看護が大切だと考えられるまでに至る過程で、私たちの先輩方がたくさん努力をしてくださっていた話を聞いて、今のこの環境が非常に恵まれた環境であるということがよく分かったと同時に、心からありがたいと思った。これまでの卒業生が頑張って守ってきてくださった大学で一生懸命頑張って学んで、この大学の伝統を守っていける存在になりたい。」「私たちが自信と誇りをもって看護を学び続けることが、この歴史と伝統を守ることにつながると思った。」「私たちは自分自身のためだけでなく、これからのために看護を学んでいくことが必要だとわかった。」「看護の歴史を知る上で、『社会の動き』はどうだったのかということと関連させていくことが大切であり、それが本当の見方であるということを知った。1つのことばかりに目を向けるのではなく、関連した様々なことを知ることによって、その1つのものの“本質”が見えてくるということなのかなと思った。この考え方を大切にしていきたいと思う。」「先生の『どんな目を持つか、広い視野を持ちなさい』という言葉はとても印象に残った。ただ人を見る、周りを見るだけでなく、様々な学問や歴史を学びなさいということ。学問にとどまらず、全ての人から学ぶことはあるというお話は、本当に今まで受けた講義の中で一番はっとさせられた。大学で学ぶことの意義や日常をどのように過ごすのか、目指すものや生きていくことで大切なものは何か、コアなものを知ることができた、気づかされたように感じる。」といったものがあった。学生にとっては、看護学部の歴史の中で培われてきた看護観を改めて確認し、本学で看護学を学ぶことの意義を考え、また将来に向けて自分の学び方を見直す機会となった。